



©Beat Streuli, Courtesy of Yumiko Chiba Associates

Beat Streuli 「Living Room」

会期：2014年9月3日(水) - 10月8日(水)

会場：Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku

トークイベント&オープニングレセプション：9月6日(土)

※トークイベントは会場が異なります。お気を付け下さい。

2014年9月3日(水)より、ユミコチバアソシエイツではベ아트・ストロイリ個展「Living Room」を開催致します。

ベ아트・ストロイリは、80年代から活動を始め、90年代にはパリ、ニューヨーク、ローマなど世界中の都市で作品を発表し続け、現在はスイスのチューリッヒとベルギーのブリュセルを拠点にヨーロッパ及びその他多くの国々で制作活動を行っている写真家です。

活動を始めた当初は、モノクロの小さなフォーマットの作品を制作・発表していましたが、90年代の初めにはスライドプロジェクション、そしてビデオプロジェクションと空間全体を使った展示構成へと変わっていきます。一方で巨大なトランスペアレントフィルムを用い、それをビルボードやビルディングのウィンドウ、ファサードなどの施設に設置した大型のインスタレーションプロジェクトが世界の様々な都市で実施され、次第にそのスケールは大きくなっていきます。

彼はこれまで、西洋の様々な都市を渡り歩き、望遠レンズを通して公共の場の人々を撮影し、その場所で生活する人々とそこにある日常性にフォーカスを当ててきました。その表情は先進国の都市そのものを時に象徴するものでもありましたが、ここ近年は西洋の主要な都市だけではなく、非西洋社会に対しても社会的な視線を向けるようになり、彼の表現は視覚的でありながら同時に抽象的なものへと、より複雑な構造へと発展しています。

1993年にニューヨーク近代美術館(ニューヨーク)でのNew Photographyに選ばれ、シドニー・ビエンナーレ、光州・ビエンナーレ、シンガポール・ビエンナーレなど多くのビエンナーレに参加する一方で、2002年に行われたパレ・ド・トーキョー(パリ)のグランドオープンでは、美術館のエントランスの窓に大型のインスタレーションを行い、その後も多くの個展やプロジェクトに参加しています。近年では2012年にIkon Gallery(バーミンガム)でも個展が開催されました。

2005年の横浜トリエンナーレ参加以来、約10年ぶりの日本での展覧会となる本展は、「Living Room」と題し、ギャラリーの壁面を利用して大型写真を壁紙のように張り付け、またプレクシングラスの額を用いた写真作品を展示いたします。日常的なアートスペースと、その外にある(非芸術な)世界の境界上で、その間を繋げるインタフェースとしての作品は我々の視覚体験を揺さぶり新しい都市認識を提示することでしょう。

尚、今回の個展開催に合わせ、ベ아트・ストロイリと詩人/評論家・倉石信乃氏によるトークイベントを開催致します。また、倉石信乃氏によるベ아트・ストロイリについて論述した研究冊子も刊行いたします。合わせてご案内申し上げます。



■コンセプト

私はここでの2度目の個展をむかえるにあたり、このスペースをリビングルームに変えてみたいと思った。西洋文化において、リビングルームや応接間には壁紙が貼られていることが極めて多い。私はこのスペースの2つの壁を、床から天井にわたって壁面写真で覆うことにした。この壁紙には、抽象的パターンか具象的素材を使った。これらは繰り返しの連続であり、始まりも終わりもない。潜在的に無限であって、そこには中心も端もない。しかし、それでもこれらはイメージなのだ。ここでのイメージとは、「リアルな」イメージ、つまり額装された版画や絵画にどことなく劣っていると考えられているものである。それは、常に壁紙というものが、ほかの何かの背景として使われ、それによって一部分を覆われてしまうしかないことにも表れている。

今回の個展のために作った壁面写真は、都会の断片で構成されている。この壁紙の上に展示している私の写真のような形象美術は、たいてい最小限のストーリーしか伝えていない。観賞者は写真に表現されている静止した瞬間をみて、その前後に起こりうることを自動的に組み立てる。一方で、壁紙は多くを語らない。それは、抽象的、あるいは「白い騒音」と言うことができるだろう。私たちは、壁紙を注視しているわけではない。私は、これら2つのタイプのイメージが共存していることが好きだ。一つは人工的に作り出された無意味なもの、もう一つは起こったかもしれないことを伝えるために現実を映し出しているように見せかけているもの。これらが合わさって、視覚的な機能であるこの2つの意味論の間を揺れ動き、観る者を惑わす。カテゴリーは揺らぎ、私たちは自らの目を信じて物事を理解しなければならない。今、このとき私たちの周りにすでに用意されていて、そして私たちもその一部分を成しているところの物事を。速く、単純な解釈ほど難しいのだ。

このインスタレーションは、私たちの都市生活、あるいは私たちや私たちの身体、視覚をはじめとする諸感覚が私たちの周囲を取りまくものと影響し合う方法を、観ることの内部——「リビングルーム」——へと変換する。あなたや私、日常生活へと変換するのだ。私たちは、ロゴやサイン、表面、色彩、動作、そしてそのほかの人間——私たちが生き、自分自身を失くしてしまうこともある、物質的で商業主義的な世界の片鱗——に囲まれているのだ。

ベアト・ストロイリ 2014年7月

■トークイベント **Beat Streuli (写真家) × 倉石 信乃 (詩人/評論家)**

日時：2014年9月6日(土) 13:30-15:00

会場：HILLSIDE TERRACE café (〒150-0033 東京都渋谷区猿樂町18-8 ヒルサイドテラスF棟)

参加費：500円(ワンドリンク付き)

※要事前予約。タイトルに「ベアト倉石トークショー」、本文に参加者のお名前、人数、ご連絡先(電話番号)を明記の上、event@hillside terracephotofair.comまでお申し込みください。

■オープニングレセプション

日時：2014年9月6日(土) 18:00-20:00

会場：Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku

■関連情報

- 1) 個展の開催に合わせ、倉石信乃氏によるベアト・ストロイリについて論述した研究冊子も刊行いたします。詳細は改めてご案内いたします。
- 2) 18のギャラリーと9の書店・出版社が参加するHILLSIDE TERRACE Photo Fair (2014年9月4日-7日 代官山ヒルサイドフォーラム)に出展いたします。



■プロフィール

ベ아트・ストロイリ (Beat Streuli)

1957年 スイス生まれ

[Solo Shows (Selection from 1998)]

- 2014 ・ Yumiko Chiba Associates, Tokyo ・ La Chambre, Strasbourg
- 2013 ・ E.A.C.C., Castellón ・ Galerie Jochen Hempel, Berlin
- 2012 ・ Museo di Fotografia Contemporanea, Cinisello-Balsamo/Milan ・ Ikon Gallery, Birmingham
- 2011 ・ Eva Presenhuber, Zurich ・ Conrads, Düsseldorf
- 2010 ・ Eva Hecey, Brussels ・ Murray Guy, New York ・ Wilma Tolksdorf, Berlin
- 2008 ・ Mac's, Musée des Arts Contemporains, Grand-Hornu ・ Jordan Festival, Petra
・ BALTIC Centre for Contemporary Art / The Sage Gateshead, Gateshead
- 2007 ・ Eva Presenhuber, Zurich ・ Museum der bildenden Künste, Leipzig
- 2006 ・ Bunkier Sztuki, Krakow ・ University Gallery, University of Massachusetts Amherst, Amherst
・ Erna Hecey, Brussels ・ Galerie Wilma Tolksdorf, Berlin
- 2003 ・ Conrads, Düsseldorf
- 2002 ・ Palais de Tokyo, Paris ・ Murray Guy, New York ・ Meyer Kainer, Vienna ・ Anne de Villepoix, Paris
- 2001 ・ Dogenhaus, Leipzig ・ Wilma Tolksdorf, Frankfurt ・ Massimo Minini, Brescia
- 2000 ・ Stedelijk Museum, Amsterdam ・ Galleria Civica d'Arte Moderna e Contemporanea, Turin
- 1999 ・ Yumiko Chiba Associates, Tokyo ・ Kunsthalle Düsseldorf, Düsseldorf ・ Kunsthalle Zürich, Zurich
・ Sprengel Museum Hannover, Hannover ・ Al-Ma'mal Foundation for Contemporary Art, East Jerusalem
・ MCA, Museum of Contemporary Art Chicago, Chicago
- 1998 ・ Rencontres d'Arles, Arles ・ Yamaguchi Prefectural Museum, Yamaguchi
・ MACBA, Museu d'Art Contemporani, Barcelona ・ Jablonka, Cologne

[Group Shows (Selection from 1998)]

- 2013 ・ Nenn mich nicht Stadt, Lokremise / Kunstmuseum, St. Gallen Le Pont, MAC, Marseille
- 2012 ・ I Spy, National Gallery of Art, Washington DC
- 2011 ・ Open House, Singapore Biennale 2011, Singapore ・ The Eye is a Lonely Hunter: Images of Humankind, 4.
Fotofestival Mannheim Ludwigshafen Heidelberg, Mannheim
- 2009 ・ Les Espaces de l'image, Le Mois de la Photo à Montréal, 11th édition, Montreal
- 2008 ・ Fluid street, Kiasma Museum of Contemporary Art, Helsinki ・ Objectivités, Musée d'Art Moderne de la Ville de
Paris / ARC, Paris
- 2007 ・ Swiss Made 2: Präzision und Wahnsinn, Kunstmuseum Wolfsburg, Wolfsburg
・ Guggenheim Collection: 1940s to Now, National Gallery of Victoria, Melbourne
- 2005 ・ Belonging, 7th Sharjah Biennial, Sharjah ・ Art Circus, Yokohama 2005, International Triennale of Contemporary
Art, Yokohama
- 2003 ・ Outlook, International Art Exhibition Athens, Athens ・ Strangers, The First ICP Triennial of Photography and
Video, International Center of Photography, New York
- 2002 ・ Open City: Street photography since 1950, Hirshhorn Museum, Washington D.C. / Museum of Modern Art,
Oxford ・ heute bis jetzt, Zeitgenössische Fotografie aus Düsseldorf, Museum Kunstpalast, Düsseldorf
・ Wallflowers, Kunsthaus Zürich, Zurich
- 2001 ・ Restaging the Everyday: Recent Work by Beat Streuli and Fischli/Weiss, San Francisco Museum of Modern Art,
San Francisco
- 2000 ・ The Gift of Hope, Museum of Contemporary Art, Tokyo ・ Le Désert, Fondation Cartier pour l'Art Contemporain,
Paris ・ Szenenwechsel, Museum für Moderne Kunst, Frankfurt ・ Quotidiana, Castello di Rivoli, Turin
- 1998 ・ every day, 11th Biennale of Sydney, Sydney
・ Freie Sicht aufs Mittelmeer, Kunsthaus Zürich, Zürich /Schirn Kunsthalle, Frankfurt

**倉石 信乃 (くらいし しの)**

1963 年生まれ。明治大学大学院理工学研究科デジタルコンテンツ系教授。1988～2007 年横浜美術館学芸員として、「マン・レイ展」「ロバート・フランク展」「菅木志雄展」「中平卓馬展」「李禹煥展」などを担当。主な著書に『スナップショットー写真の輝き』（大修館書店、2011 年日本写真協会学芸賞）、『反写真論』（オシリス）など。2010-12 年仲里効と『沖縄写真家シリーズ「琉球烈像」』（全 9 巻、未来社）を監修。2001 年シアターカンパニーARICA 創立に参加、コンセプト・テキストを担当。

【本展に関するお問合せ】

ぜひ貴社にて御紹介くださいますよう宜しくお願い申し上げます。尚、御質問および画像データの御依頼は下記までご連絡下さい。

ユミコチバアソシエイツ 担当：鈴木孝史

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 4-32-6 パークグレース新宿#316 Tel：03-6276-6731 e-mail：

info@ycassociates.co.jp website：www.ycassociates.co.jp 営業時間：12:00-19:00 定休日：日、月、祝日